

〔事例発表〕

社会福祉法人 三心会 豊間根保育園

作成者：中村 雅堂

岩手県下閉伊郡山田町豊間根にある保育園です。ちょうど沿岸の中心部あたりだと思います。同じ系列の山田町第一保育所、織笠保育園についても後ほど紹介したいと思います。

2011年3月11日に東北大震災があり、山田町第一保育所は津波の被害を受け、山田町も多くの犠牲や被害を受けました。私の実家も流されてしまい悲しい思いでした。そんな中「緑を増やそう。どんぐりを育てよう。」という「子どもの森づくり運動・東北復興グリーンウェイブ」の取り組みを知りました。復興に向けて生きている私達にとって、このような取り組みに参加出来る事を嬉しく思いました。この事業が始まる前からドキドキ感動していたのを覚えています。

ちょうど保育園には大きなどんぐりの木が三本たっています。



事務局の河内さんには、「森にあるどんぐりの木より太くていい木ですよ。」というお言葉を頂き、いい場所に保育園が建っていたんだなと思いました。

それでは昨年からはまった保育園での様子をお伝えしたいと思います。

2012年10月24日（水）「どんぐりを植える会」



園児も保育士も地域の方も、川内さんのお話を聞きました。どんぐりを植えたらどうなるか？どうやって育つのか、子ども達が大人になった時山田町はどうなっているか等の説明を聞きました。今まで落ち

ているどんぐりを拾い、色や大きさ形を気にはしていたが、自分たちが育てようと考えた事はなかったので、とても興味深く話を聞いている子どもたちでした。またこの時川内さんがどんぐり博士である事を知りました。



園庭から移動し駐車場前のどんぐりの木の前に集まりました。



3園の子どもたちでたくさん拾いました。この写真には写っていない所まで探していました。



「上を見てごらん」と言葉をかけると「うわ〜」と嬉しそうな表情でどんぐりを見ています。



こんなにたくさん拾いました。



どれ位水に沈むかな？と期待しながら待っていました。浮いてきたのを見てなぜか大喜びでした。この時沈んだ方がいいどんぐりだとはまだ知らなかったのです。



博士から土の中にどうやって植えるか聞き、実際にやってみました。



「どんぐりを元気な苗に育てて下さい。」と全国の幼稚園・保育園の子どもたちに送りました。またこのどんぐりが戻ってくる事を楽しみに冬を過ごしました。環境的に寒い土地なのですぐに雪が降り、どんぐりを育てているという意識ではなかったように感じます。春になり雪が溶けて「先生どんぐりいつ芽がでるかな？」と毎日のぞくようになりました。年長児は水やりをし、まだかまだかと過ごしていました。

2013年5月22日（水）「苗木のお披露目会」：グリーンウェイブの日☆



清水会長さんからは他園の様子を教えてもらい、博士からはプランターからポットへの植え替えを教
てもらいました。この日も3園が集まりました。



4月に一度暖かくなったのですが、GWに雪が降るなど順調に発芽せず、お披露目会までに大丈夫かな
と園児も保育士も心配していましたが、3つは小さい芽を出し間に合いました。



博士の指導の下慎重に植え替えました。大事な芽の為緊張していました。



東京で育った物を頂き5つになりました。



昨年の年長児は小学生になり、一つ下のクラスの子たちが増えたので、どんぐりに関わる人が増えている事。また知らなかった人達とどんぐりを通して知り合い、自然と絆で結ばれているなど感じます。この子達には明るい未来、復興した町・緑の山があるんだなと思うととてもいい事業に参加できた子どもたちが幸せだと思います。

それから暑い夏が来るので「どんぐりさん枯れちゃうよ。今日水あげたかな？」と日に日にどんぐりに興味を持つ子が多くなっていきました。「芽が伸びてる」と子ども達の会話にもよく聞かれるようになりました。他の植物や野菜も一緒に育てたり、自然に囲まれた豊間根に過ごす事で生物への関心を強く持てるようになってきたと思います。

秋に近付くと、どんぐりの木の下で登降園時緑のどんぐりを拾い、「見て見て」と見せてくれました。今年はずぐに寒くなったのでどんぐりが茶色に変化していました。昨年拾った子は「今年もどんぐり植えるの？水に浮くかな？」と何も分からなかった昨年とは違い、どんぐりを実際に育てたという気持ちが育っているようでした。ただ水に浮くのがいいと思っている子多いのは……。昨年よりもいっぱいどんぐりがなっているようで、どんぐり拾う会を楽しみに「ちょっとだけ拾っていい」と我慢して待つ事にしました。

2013年10月15日（火）どんぐり拾い・どんぐり植え会



3回目のどんぐりの会では、すっかりお馴染みで「どんぐり博士～」と大きな声で自然と呼ぶ子ども達。この一年でどんぐりだけでなく博士との出会いも子どもたちの心の中に残っているようです。何も分からず始まった昨年とは違い、「穴あいているのは虫が食べたやつだからだめだね。」と会話をしながら拾っていました。初めて参加した3歳児は「これかな？」と保育士に聞きながらどんぐり拾いを楽しんでいました。昨年よりもたくさんの実がなり、尚且つ水に浮いたのはほんとに少しでした。これにはどんぐり博士も驚いていました。それからどんぐりを植えて、残りは全国の子に送りました。ただどんぐりを拾う所から自分たちで育てるんだ。大きくなったらどんぐりの木が山田町に増えるんだという楽しみを持って過ごせるようになり、明るい未来が待ち遠しいです。



今現在の様子です。また東北の寒い時期がやってくるので来年の春どれ位成長してくれるのか、被災地の私たちにとってこれ程待ち遠しい冬はなかったかもしれません。きっと子ども達は大きくなっても保育園でのこの活動を忘れないと思います。ねらいにある共に生きる(共生)心も育っていく事でしょう。新しいどんぐりも含めて山に植える日を楽しみに育てていきたいと思っています。

☆被災地支援活動

- ・昨年12月に三心会男性保育士で「男心会」というチームを作りました。まずは山田町での活動をスタートしました。子ども達が楽しめる遊びや活動を考え今年の5月にデビューしました。まだ身近な所だけのスタートでしたので、少しずつ周りの地域にも出て行って子ども達に元気を与えられたらいいなと思っています。

○山田町第一保育所の様子

どんぐり博士から話をしてもらった通り、葉っぱが色づき一枚二枚と葉が落ちていきます。子ども達は色が変わったのを見て「綺麗」と言ったり、「葉っぱがなくなったら嫌だ。」と話したり、苗の様子の変化を感じながら観察しています。沿岸の寒い冬を無事に越せるようにしていきたいです。

○ 織笠保育園の様子

当園でも、昨年 10 月に「被災地のどんぐりを植える活動」に初めて参加し、今年度も含めどんぐりを育ててきました。初めての体験で春に発芽するかが心配でしたが、冬場に落ち葉をかぶせたり、気候も功を奏し、春には 10 本以上のどんぐりを発芽させる事に成功しました。今年度の秋にも園の裏山でどんぐりを拾い、来春の発芽を子ども達と期待している所です。

当園がある、山田町織笠地区も東日本大震災では甚大な被害を受け、周辺の山々は復興に向け造成が急ピッチで進んでいる所でもあります。今後、復興が進む中で森づくりの観点からも新しい街に、私たちが育てたどんぐりの木が植えられ、未来の子どもたちがその木を囲んで笑顔を増やしていく事を、期待していきたいと思えます。



H25 年 10 月 31 日

園 裏山でどんぐり拾い。



H25 年 5 月 22 日

24 年度採取のどんぐりを、ポッドに
植え替え。